

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 66 号 / 2013 年 3 月 22 日発行

編集 / 医学研究科長

『私の臨床研究』

久留米大学医療センター整形外科・関節外科センター教授

樋口富士男

昭和 50 年医師国家試験に合格してすぐ整形外科教室に入局した。病棟には、最新の治療法としての人工股関節置換術が毎週のように行われていた。リハビリ病棟に行くと術後の急性期の病態から外れ、ギプスからも外れリラックスした患者が多数ベッド上に座っていたが、ほとんどの人の顔が一様に黄色かった。先輩に理由を尋ねると 15% の頻度で発生した輸血後肝炎と教えられた。人工股関節手術は股関節障害の患者にとって夢の治療法であったが、周術期には 1000~2000g の出血があり、輸血が常識の手術であった。

昭和 60 年一連の研修・学位研究・留学・医長出張を終え、大学に戻り本格的な臨床研究を始める時、当時の教授井上明生先生から、輸血後肝炎の患者を救う方法を考えなさいと言われた。試行錯誤の末、日本赤十字社の協力を得て、なんとか冷凍保存自己血輸血を股関節手術に併用するシステムを構築することができた。その時を境に輸血後肝炎は久留米大学の股関節外科からなくなった。このことは、日本はもちろん世界でも初めての快挙であったと自負している。

自己血輸血は、他人血を避けるために、手術前に患者の血液を採り保存するのだが、当時はすべて主治医が実施しなければならなかった。外科医は自己血を貯めている患者には他人血輸血を避けようと、術中の止血を丹念に行うようになった。その結果、股関節手術の出血量は少なくなり股関節手術の安全性が上がり、患者の数が増えていった。

自己血輸血のシステムが順調になって間もなく、両側の股関節、両側の膝関節ともリウマチに侵され歩行不能となった患者が来院した。股関節の手術をしてほしいが、エホバの証人なので自己血輸血もない無輸血でしてほしいと依頼された。私は「とんでもない、無輸血で股関節手術ができることはあってもそれは幸運の結果であって、無輸血での股関節手術を引き受けることはできない」と答えた。しかし、

念のために井上明生教授に尋ねると、少し考えられた後「患者の健康と信念の両方を助ける方法を考えなさい」と言われた。そのころ、ちょうど大学に医療の倫理を審議する倫理委員会が発足したばかりであった。委員長に相談したところ、手術を受けるのに輸血を拒否するなど、非常識極まりないと大目玉をくらった。その理由は、「医学の究極の目的は命を救うことであって、宗教的な信仰を満足させることではない」であった。今でもこの考え方は、多くの医療関係者の中に根強く残り、輸血拒否を表明する患者には治療を拒否する医者もいる。私は患者の命を優先する考えも信仰を優先する考えもどちらの考えも正しい、正しいことは一つとは限らないと思った。その後、私はエホバの証人であっても、無輸血手術が可能な条件が揃った患者に限って、手術を引き受けている。その間、外科医として術中出血量をできるだけ少なくする方法を工夫し、切開長を短くした低侵襲人工股関節置換術を開発した。その結果、現在の最小侵襲人工股関節置換術に発展した。

医学研究は、科学、統計を利用しエビデンスを証明することが多い。しかし、理詰めで常にものを考えると不条理なものがある。正しいこと、真実は一つとは限らない。パラダイムシフトで医学の常識は変化する。場所により、時により、人により変わるので研究テーマは無限にある。外科の研究は、知識を増やすこと経験を積むことで能力を高めることができ、手術を続けることで次の研究テーマが生まれてくる。

井上明生名誉教授は、50 歳代後半のころ「メスの置き時」の話をよくされた。しかし、75 歳を越えられた今も手術をされている。なぜ外科医は手術をするのか。患者を助けるため？世のため？人は、世の中に生きているかぎり一生、進むしかない、進むと次が見えてくる。登山家にどうして山に登るのかと尋ねると、そこに山があるからだと答えるのと同じようだ。



特集 ～The Students' Voice～

『大学院に入学してからの1年を振り返って』

博士課程1年 久篠 奈苗

大学院に入学して早くも1年が経とうとしています。ここに至るまで、たくさんの先生方のご理解やご協力を頂いたことに感謝しています。今は、臨床を減らして大学院での研究活動が中心の毎日です。私は2度大学を卒業し、十分に学生生活を送ってきたのですが、臨床業務をする中でももう少し学びたいことがあり、大学院に入学しました。共通科目では、講義やレポートを通して十分に理解できていなかった分野の理解が深まったり、最新の研究の成果などを学んだり、自分のこれまでの勉強不足の痛感の反面、いくつになっても新しい知識を得ることができる喜びを実感することの多い1年でした。また、今年度は、8月に唐津で行われた医学ワークショップにも参加して、医学教育の現状を知るだけでなく討議にも加わり、教職員の方々や他の大学院生や医学生との交流の機会を得ることができ、とても有意義なものでした。研究室では教授をはじめ、先生方の力を借りながら少しずつ研究を進めています。これからは論文研究が中心となっていきますが、今後もこの1年で得た以上のここでしかできない経験を積み重ねて、より意義のある大学院生活を送りたいと思います。

『チャレンジ』

修士課程2年 梅津 敦士

入学して2年が経つ、今までの大学院生活を振り返ると様々な講座に顔をだし、セミナーや研究会への参加、国際学会での発表など、大学生時代とは違って自ら行動し学ぶといった貴重な体験ができた。

私は大学院に入るまでは、受け身的に行動していた。課題が与えられればそれをこなし、セミナーへ参加するよう言われればそれに出るようなものであった。しかし、自ら学びたい分野に出会い、それを深めるべく大学院に入ることにより自ら学び行動することができるようになった。また、セミナーや研究会、学会に参加することによって様々な人と縁ができ、繋がりができるようになった。ネットワーク作りも大学院生活で学んだ貴重な体験である。何事も、受け身ではなく自ら行動し、チャレンジするからこそ学びが大きく、人との出会いがあるのだと私は思う。このことから、大学院生活で学んだことは、行動を起こさなければ何も始まらない。チャレンジした事が大きくくじけそうになっても、努力をすれば超えられる。そして、チャレンジが大きければ大きいほど達成した時の充実感は格別である。チャレンジは私の原動力である。私は今後、感染症疫学をマスターすることを目標としている。その目標に向け突き進んでいきたいと思う。この場をお借りして、ご指導くださった三橋教授をはじめ、お世話になりました先生方々へ感謝致します。

事務通信

進学・進路調査票の提出について

平成24年度内の修士課程・博士課程修了者および修了見込み者を対象に、平成25年4月以降の進学・進路調査を実施しています。本調査は、緊急連絡を取ることがある場合に連絡先を把握する目的のほか、文部科学省「学校統計調査」等の調査基礎資料として活用します。未提出者は速やかに医学部事務部教務課までご提出をお願いします。

胸部X線検査のお知らせ

本年度は実施日が2日間です。25年度在学学生についてはご確認の上、撮影漏れがないようご注意ください。なお、未受診者は、各自で検査を受けた証明書の提出が必要となりますので、事前に健康・スポーツセンター旭町分室（直通：0942-31-7690、内線：2811）までご相談ください。

実施日	4月2日(火)	4月9日(火)
実施時間	9:00~16:30	12:00~16:30
実施場所	医学部B棟玄関前および医学部B・C棟と筑水会館の間	
実施方法	検診車2台	

※受診の際は受診票が必要です。学外所属の方は教務課窓口にて準備していますので、受取をお願いします。

平成24年度成績報告並びに平成25年度履修希望調査実施について

修士課程・博士課程在学学生を対象に、平成24年度の履修結果ならびに成績報告書を3月下旬～4月上旬に配布する予定です。併せて、各自の履修状況を踏まえ、平成25年度に履修する科目を決定していただき、履修登録を行うための「平成25年度履修希望調査」を実施致します。書類が届きましたら、速やかに当該年度の履修登録科目を決定し、医学部事務部教務課までご提出下さい。

※平成25年度大学院カリキュラムはそれに同封いたします。今しばらくお待ち下さい。



学生駐車場 2 次募集のお知らせ



大学院学生の皆様を対象に学生駐車場（7 番駐車場）の 2 次募集を行います。申し込み希望者は下記に従って、期間内の手続きをお願いします。

1. 申込期間：平成 25 年 4 月 8 日（月）～15 日（月）締切厳守
2. 募集台数：14 台
希望者多数の場合は抽選です。
なお、通学距離が大学より片道 2 k m 未満の場合は申し込みできません。
3. 提出書類：駐車場使用許可願（※）・誓約書（※）・車検証コピー
※印の書類については、医学部教務課窓口で受け取られるか、大学院医学研究科 HP
（<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>）在学生向け情報（学生掲示板）よりダウンロードして下さい。
4. 書類提出先：医学部事務部教務課
5. 使用開始時期：平成 25 年 5 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
6. 使用許可通知：決定後、本人宛に通知します。
7. 許可証交付予定日：平成 25 年 4 月 26 日（金）～交付場所：愛恵会総務部
※許可通知時に改めてお知らせします。
8. 料 金：20,600 円



後期入学試験結果

2 月 19 日に行われた後期入学試験の結果は下記のとおりとなっております。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	10名	10名	10名
博士課程	17名	17名	17名

※平成 25 年度医学研究科学生募集要項については、8 月上旬に完成予定です。
大学院医学研究科ホームページでも情報提供しますのでご確認ください。



編集後記

3月27日（水）に大学院学位授与式が行われます。多くの方がお勤めされながら、あるいは家庭を守りながら研究に励まれ、この日を迎えられることと思います。誠におめでとうございます。
新年度もどうぞ宜しくお願いします。（瀧）